

【実践事例（2）】

（宮城県気仙沼向洋高等学校）

教職員の意見を取り入れたマニュアル簡易版の作成・見直し

学校の状況

- 東日本大震災における津波で校舎が全壊。3校に分散しての学校再開。平成23年11月に市内高台に建設された仮設校舎にて7年間の学校生活を送った。その後、気仙沼階上地区に完成した新校舎にて平成30年8月より学校生活に取り組んでいる。旧校舎は東日本大震災の爪痕そのままに気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館となっている。
- 学校のある階上地区は津波被害が大変大きく、そのため地域住民の防災意識は高い。
- 学校は旧校舎より内陸に建設され、海岸から約1.3km離れ、標高約20m以上ある。校舎3階以上に避難する垂直避難訓練、約900m離れた第3次避難場所である気仙沼市立階上中学校までの避難訓練等にも取り組んでいる。

取組方法

- 1 毎年年度始め（年度始めの職員会議前後）に、防災教育校内研修会を行い、「学校防災マニュアル」について内容確認と読み合わせをし、共通理解をする。
- 2 教職員から「学校防災マニュアル」内容や表現等について意見をもらい、改善する。
- 3 改善された学校防災マニュアルを基にマニュアルの簡易版として2種類、「防災マニュアルリーフレット」（A3 2つ折り両面印刷）、「防災マニュアル・ポケット版」（A5半分両面折りたたみ）を作成し、4月の職員会議で配布、確認、共有する。
- 4 「防災マニュアル・ポケット版」について3年前より教職員の意見により、pdf データ化し、教職員と共有している。全教職員のスマートフォン等にダウンロードしてもらい、災害発生時に学校外でも、自宅でも非常参集の判断基準や参集対象者の確認ができる体制を確立した。

気仙沼向洋高校の防災マニュアル

The diagram illustrates the process of creating simplified versions of the disaster manual. It starts with the main '防災マニュアル' (A4 53 pages), which is then converted into a '防災マニュアル・リーフレット' (A3 two-page fold) and a '防災マニュアル・ポケット版' (A5 pocket size). Each version includes a list of contents and a table of page numbers.

防災マニュアル	防災マニュアル・リーフレット	防災マニュアル・ポケット版
防災マニュアル A4 53ページ 綴じ込む「防災ファイル」も配付。ポートフォリオもしてもらう	防災マニュアル・リーフレット A3二つ折り両面。すぐ確認できるよう作成	防災マニュアル・ポケット版 鞆に入れて持ち歩く。PDFデータも配付。スマホにダウンロードし、常に確認

防災マニュアルの活用方法

■防災マニュアル・ファイルの活用

防災マニュアルを綴じ込み各自が保管・机の上にいつでも取り出し、確認できるようにする。危機管理マニュアルも。配付される防災資料（防災訓練実施要項・防災に関する文書等もファイリング→ポートフォリオ書き込む・まとめる・防災マニュアルの“自分化”“自校化”した防災マニュアルを“自分化”する。

■防災マニュアル・リーフレットリーフレット

引き出しの中・壁に掲示 ファイルに綴じ込み確認。

■防災マニュアル・ポケット版

鞆に入れて持ち歩く。自宅で確認用。PDFでスマホで災害時すぐ確認。